

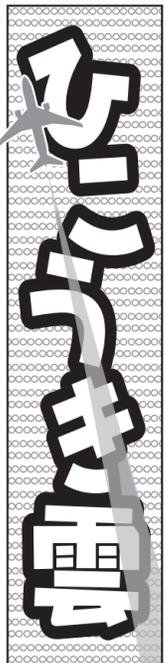
世界では、現在の2倍になります。それは、脱化石燃料、カーボンゼロの時代を迎えるからで、世界の自動車や動力源は、ほとんど全てが、二酸化炭素を排出しない電気(緑の電気)(再生可能電気)で実現されるからです。菅首相が就任演説で2050年までに「脱炭素社会」の実現を表明したのは、太陽光発電に在ります。それは「ペロブスカイト型・太陽電池」です。これは2009年に桐蔭横浜大学の宮坂力特任教授が発明した技術で、現代の太陽光発電とは全く異なる方法で発電します。新型太陽光発電は、液体の原料を塗るだけでどんなものも太陽光発電になると言う画期的な発明で、現在の重く、堅く、広大な場所を必要とする太陽光発電とは全く異なるものです。現在世界中で開発競争が始まっています。

我が国から発信する「フィルム型・太陽光発電、緑の電気」

第4の革命、カーボンゼロ時代の始まり。

50年には、今の倍必要になる電力。今始まっている我が国発のイノベーション！

第四の革命、1農業革命・2産業革命・3IT革命・4エネルギーデモクラシー！



発行所 株式会社 松下孝建設
発行人 松下孝 行
編集責任 齋藤 恭 誠
■本社
〒891-0108
鹿児島市中山1丁目14-29
TEL 099-267-7594
FAX 0120-079-089

省から実証事業を受託したブランドが九州電力によって稼働する予定です。「九電みらいエナジー」の寺崎事業企画本部長は「太陽光発電並みの低コストとは行かないものの、日本近海には原子力発電の20分の1の潮流エネルギーが眠っており、24時間、天候に左右されない安定したエネルギー源になりうる」と解説しています。

長崎県五島列島で始まる九州電力の「潮流発電」実証試験。

スマートフォンの搭載が進み、すでに身近なものとなりつつある無線給電。自動車(EV)との相性も良いことから、ドローンや工作機械などへの適用範囲拡大に向けた技術開発や指針の議論が本格化。早ければ今年中にも現在より高出力の技術や伝送距離が長い技術が実用化される見込みで、NEDを中心電力・自動車業界もこうした流れに注目しており、ベンチャーへの出資や、共同研究の動きが加速しています。

無線給電システムの開発で自動車産業の未来が変わる。

無線給電については19世紀から存在しており、新しい技術ではありません。電波利用との干渉が実用化された技術でした。現在実用化されている無線給電は課題の少ない小電力・短距離の電磁誘導方式で、スマホ向けのQi規格は15W以下を規定。送電側と受電側に大きな隙間があれば給電できません。「どこでも充電」を行い自動車や産業用に活用するために、出力増強やエネルギーを電波に変換、送受信する方式の確立がひつようで、内閣府は戦略的イノベーションプログラム(SIP)の一環として遠距離・高効率・大電力で安全な無線給電の研究開発を18年度から開始。そのうち基礎技術開発の項目は名古屋大学教授でノーベル賞受賞者の天野浩氏が責任者となるなど「オールジャパン」の体制で取り組んでいます。

走行中給電が自動車産業の未来を変えてしまう。

現在、自動車の未来は、電機自動車と燃料自動車の2択になっていますが、給電システムが確立し、道路に埋め込まれた送電線から給電できる「走行中給電」が可能になれば、圧倒的に電気自動車(EV)が有利になります。現在のEVは、バッテリーの搭載量で走行距離が決まりますが、道路からの「走行中給電」が確立すれば、バッテリーの積載が不要になりEVは燃料の補給の心配がなくなり、軽量で効率的な自動車の開発が可能になります。水素を燃料とする燃料自動車よりも圧倒的に有利になります。送電方式が変更になるだけで、自動車の未来は確実に変わります。また、電力の無線給電が可能になれば、ドローンは永遠に飛び続けられます。大型のドローンによる、空飛ぶ自動車も確実に実現します。現在、JAXAが開発しているシステムは、宇宙空間で太陽光発電を行って、その電力を衛星の動力源にしたり、地球に送電することも可能になります。給電方式の変更だけでも産業構造は大幅に変わります。日本の技術は、「ペロブスカイト型・太陽電池」から、電力の給電方式に至るまで、最新のイノベーションのまっ只中に、それも最前線で頑張っています。

オランダやアメリカでは道路を太陽光発電に活用？

オランダで2014年、世界初のソーラー道路「ソラロード(Solar Road)」が自動車専用道路として建設されました。フランスのマトロン大統領が今後5年間で1000kmの道路にソーラーパネル舗装材を敷設し、500万人に電力を供給すると発表しました。道路の活用は、広大な電力を生みだします。世界中で地球温暖化を止めるための、イノベーションが確実に始まっています。

「走行中給電」の道路建設・走行実験が始まっている。

我が国でも、東京大学大学院新領域創成科学研究科の堀洋一教授を中心に道路の施工方法や素材の選定、給電実験が開始されています。

始良『H2V』展示場 公開中!



停電時、車から家へ電気を供給できる『V2H』システム搭載。感染症を提言できる循環空調システムと相乗効果のある設備。鹿児島に家族の日常と健康を守る家が完成しました。2020年からは、自活エネルギー住宅の本格的なZEH(ゼッチ)の時代を迎えます。『V2H』住宅は、太陽光発電を軸に「自活エネルギー住宅」を実現。住宅とEV自動車とが連結し、家庭用蓄電池の10倍以上の蓄電能を持つEV自動車や、停電時等の家庭用電源としても機能します。松下孝建設がご提案する近未来型の自活エネルギー住宅を是非ご体感ください。

和楽展示場 公開中!

ハイブリッド・エコ・ハートQ
「エアコン1台、全室低温空調暖冷房」

matsushitataka
和楽
WARAKU

丁寧に仕上げられた『和』の意匠は
静謐な美しさを
いつまでも『楽』しめる



鹿児島の気候に適した高気密・高断熱と「循環空調」システムの「和」をイメージしたモデルハウスです。一般家庭用のリビングサイズのエアコンで室内空間のすべてが温度差なく、一年中を快適に過ごせます。高性能樹脂サッシと24時間計画換気で、結露の発生を防ぎ、家族の健康と住宅の高耐久性を実現しました。ZEH基準を標準クリアした外皮性能とハウス・オブ・ザ・イヤー2013で大賞を受賞した公的にも認められた施工技術の粋。外装、内装共にこれまでの松下孝建設とは少し違う趣を感じてください。



薩摩川内市 新モデルハウス



住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

0120-079-089